

中国細石刃石器群の理化学年代集成

はじめに 2010年度より、文部科学省科学研究費補助金を得て「中国細石刃文化の基礎的研究—河南省靈井遺跡石器群の分析を中心として—」を進めている。その中で集成した中国の細石刃遺跡に対しておこなわれた年代測定値をもとに、中国東北部／中国北部（華北）地域の細石刃文化に関するいくつかの課題に関する予察を述べてみたい。

表2で華北地域の後期旧石器時代後半の遺跡のうち、年代測定がおこなわれたものとその測定値を一覧した。暦年較正年代は、較正曲線IntCal09、ソフトウェアCalibRev6.0.1を用いて算出した。その際、半減期5730年での放射性炭素年代は、半減期5568年のものに変換した。誤差は $\pm 1\sigma$ 。

また、細石刃石器群の類型化は以下の通り。①群：小型舟底形細石核による細石刃技術を主体とする石器群、②群：各種楔形細石核による細石刃技術（虎頭梁細石刃技術複合）を中核にする石器群、③群：楔形細石核を簡略化したような剥片素材の小型の楔状細石核（“亜楔形細石核”）や小型舟底形細石核による細石刃技術をもつ石器群、④群：角錐状細石核による細石刃技術を主体的な細石刃技術とする石器群。

細石刃文化の出現 華北各地での最古の細石刃石器群の年代は、現在のところ、陝西省龍王辿、山西省柿子灘S26地点を擁する黄河中流兩岸地区、河南省西施が所在する河南省中西部の嵩山山麓がずば抜けて古く、2.5万calyrBPよりも古い年代が測定されている。しかし、泥河湾盆地、六盤山山麓、渤海湾北岸（燕山南麓）の各地区では、2.0万calyrBP前後である。

古い年代を示す地区でも、黄河中流兩岸地区に近隣する関中盆地の陝西省育紅河のように、小型剥片石器群が2.0万calyrBP前後まで残存する可能性がある。このため、0.5万年以上、小型剥片石器群と細石刃石器群が並存していたことになる。一方、新しい年代を出している後者の地区では、細石刃石器群に先行すると考えられる小型剥片石器群も2.0万calyrBP前後に姿を消すので、このころに小型剥片石器群から細石刃石器群への移行がなされたとみることができる。

新旧いずれの年代をとるにしても、華北地域においては、最終氷期極寒期（LGM：3.0～1.9万calyrBP）に細石刃石器群が出現したといえることができる。この時期、中国東北部から華北地域北部には、マンモス動物群が南下したことが知られている。これとともに細石刃技術の荷担集団が移動し、華北地域の小型剥片石器群をもつ在地集団と接触したことが華北地域での細石刃技術出現の契機だったと考えている。同時に、華北地域で細石刃技術が採用されたことは、LGMへの技術適応であったと考えられよう。

細石刃文化の展開 華北地域では、約2.5～2.0万calyrBPに前後する時期に①群、④群が成立し、主要な細石刃石器群として、終末期まで継続する。

次いで、約1.6万calyrBPを前後する時期に、②群が出現する。②群は明瞭な北方系細石刃石器群で、類似する石器群が中国東北部で多数検出されており、ロシア極東部ないし東シベリアから中国東北部を経由して華北地域に到達したものだろう。この時期は、晩氷期のハイネリッヒイベント1（H1）前後の自然環境が不安定な時期にあたる。日本においても本州地区に②群と類似する湧別技法をもつ細石刃石器群が出現・拡散する。おそらく、この不安定な自然環境が東アジアの各地で新たな細石刃石器群の拡散のトリガーを引いたと考えられよう。②群のピークは泥河湾地区の虎頭梁遺跡群や黄河中流域兩岸地区の柿子灘S1地点の知見から約1.2万calyrBP前後とみることができる。

この約1.2万calyrBPを前後する時期に、華北の広い範囲に③群が出現する。表2以外にも、黄淮平原の河南省大崗で更新世と完新世の境界付近とされるS₀から③群が出土している。③群には、②群も保持する楔形細石核、荒屋型彫器がみられるほか、中国で石鏃と呼称される小型両面（片面）調整尖頭器が組成されるが、これも②群に特有な木葉形の両面調整尖頭器（石矛）と関連するものであろう。これらのことから、③群は②群から派生したものと想定している。

おわりに 今回のべたことは、ごく初歩的な予察である。今後、更なる資料の蓄積とその分析を進め、中国細石刃文化に関わる諸問題を解明したい。（加藤真二）

表2 中国細石刃石器群・小型剥片石器群の理化学年代一覧

地区	遺跡名	類型	未較正年代 ($^{14}\text{CyrBP}$) (半減期 5730 年)	未較正年代 ($^{14}\text{CyrBP}$) (半減期 5568 年)	較正年代 (calyrBP)	その他の年代 (yrBP)
燕山南麓	東方広場下文化層	小型	24890 ± 350		28642 – 29369	
黄河中流両岸	龍王辿 6 層	④		24145 ± 55	28551 – 29303	
燕山南麓	東方広場上文化層	小型	24240 ± 300		27994 – 28611	
太行山脈	小南海 6 層	小型	24100 ± 500		28061 – 28382	
燕山南麓	東方広場下文化層	小型	22670 ± 300		25995 – 26882	
黄河中流両岸	龍王辿 5 層	④類		21740 ± 115 – 22200 ± 75	25455 – 27353	
黄河中流両岸	西施	④類	22000		25000	
黄河中流両岸	龍王辿 4 層	④類		20920 ± 70 – 21000 ± 70	24585 – 25498	
黄河中流両岸	柿子灘S29第 6 文化層	?			24150 – 24950 (2 σ ?)	
燕山南麓	東方広場下文化層	小型				22370 ± 1540 – 25850 ± 1180 (TL)
黄河中流両岸	柿子灘S12C	①類	19375 ± 60	18830 ± 60	22296 – 22500	
太行山脈	小南海 6 層	小型				21400 ± 1300 (ウランシリーズ)
六盤山山麓	蘇苗塬	小型		16750 ± 70 – 18920 ± 520	20060 – 23260	
六盤山山麓	彭陽PY03	①or ④		18350 ± 70	21687 – 22107	
黄河中流両岸	柿子灘S12A	①類	18180 ± 270		20848 – 21400	
泥河湾盆地	二道梁	①類	18085 ± 235		20821 – 21256	
燕山南麓	孟家泉	④類	17540 ± 250		19853 – 20526	
関中盆地	育紅河	小型	17330 ± 500		19427 – 20539	
燕山南麓	東方広場上文化層	小型				14940 ± 550 – 19230 ± 3370 (TL)
太行山脈	小南海 6 層	小型				18900 ± 1500 (ウランシリーズ)
黄河中流両岸	柿子灘S12A	①類	16050 ± 160		18630 – 18886	
泥河湾盆地	西白馬營	小型				18000 ± 1000 (ウランシリーズ)
泥河湾盆地	油房	④類				13000 ± 1300 – 16000 ± 1300 (TL, OSL加重平均)
黄河中流両岸	薛関	②類	13550 ± 150		15601 – 16474	
泥河湾盆地	馬鞍山	②類	13020 ± 120		14615 – 15169	
黄淮平原	靈井 (平均値)	④類		11540 ± 10	13329 – 13419	
太行山脈	孟家莊	③類	11960 ± 150		13327 – 13635	
黄河中流両岸	柿子灘S 9	④類			12393 – 12756 (2 σ ?)	
泥河湾盆地	虎頭梁	②類	11000 ± 210		12379 – 12871	
泥河湾盆地	于家溝6/7層境界	②類				12200 ± 1000 (TL)
黄河中流両岸	柿子灘S 1 上文化層(L2)	②類	10490 ± 540		11197 – 12587	
太行山脈	趙王村	③類	10290 ± 110		11275 – 11640	
泥河湾盆地	于家溝 4 層	②類				11100 ± 900 (TL)
黄淮平原	李家溝	③類			10300 – 10500	